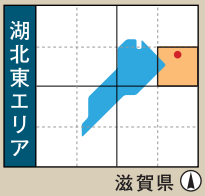
天然記念物
特別天然記念物

長岡（ながおか）のゲンジボタルおよびその発生地（はっせいち）

山東町長岡　昭和19年3月7日指定
特別天然記念物　昭和27年3月29日指定



坂田郡を流れる「天野川」流域には、ゲンジボタルの天然記念物指定地が2カ所あります（学習シートNo.122息長ゲンジボタル発生地）。長岡のゲンジボタル発生地は、古くから地元で保勝会が結成され、その保護と育成に力を注ぎ、戦争中の中断はあるものの積極的な活動の成果により、昭和27年に特別天然記念物に指定されました。

天野川のゲンジボタル②

（学習シートNo.122より続く）

昭和30年代に入り、農薬、工場排水、家庭排水により河川が汚染され、カワニナや幼虫が著しく減少します。さらに追い打ちをかけるように、昭和34年（1959）の伊勢湾台風により河川環境が激変し、両指定地内のホタルは壊滅的な打撃を受けます。その後、保勝会の後身「ゲンジボタル保存会」は、支流に残る種ホタルを保護するとともに、ホタルの保護条例を制定し、その保護と増殖に努めた結果、昭和50年代からその数が増し、現在では全国有数のホタルの発生地として、多くの人達が訪れるようになりました。



長岡ゲンジボタル発生地現況



乱舞するホタル

ホタルについて

日本には約40種類のホタルが棲息しますが、その中でもゲンジボタルとヘイケボタル、それにクメジマホタルなど数種のみが『水生ホタル』と位置付けされています。清らかな川に棲むのがホタルの特徴と思っていた人もいるのでは？　ホタルの世界から見れば、先に挙げた数種類のホタルの方が珍しく、特異な存在と言えるのです。

■なぜ光るの？

ホタルが光るのは、オスとメスの求愛のための行動で、彼らの重要なコミュニケーションの手段です。発光細胞にあるルシフェラーゼという酵素が酸素と結合し、それが分解する時に強い光を発するというのが、光る仕組みです。

■光は熱くないの？

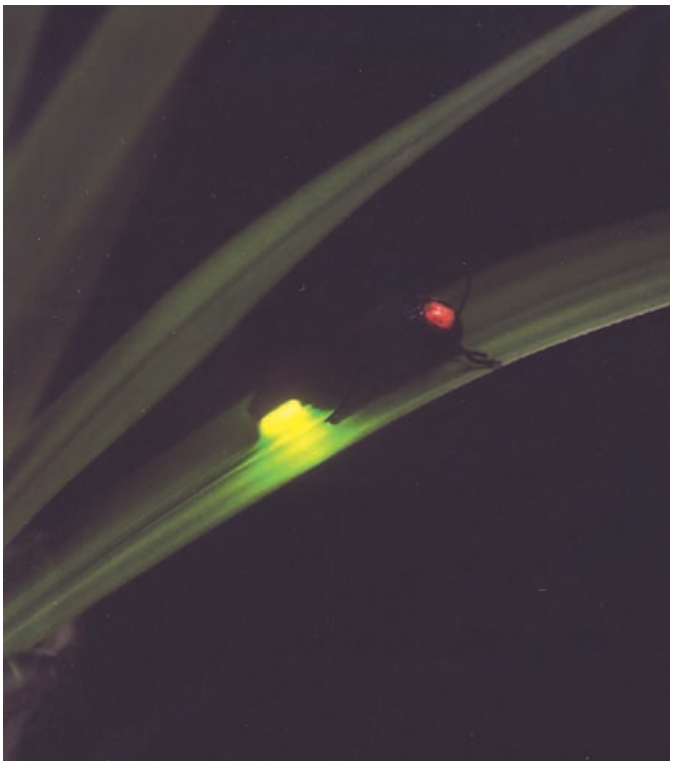
物質を光に変化させるには大量の熱が生まれますが、ホタルの光は酸化反応による発光のため微量の熱量しか発生しません。この光は、『冷光』と呼ばれています。

■光る間隔は？

驚いたことに、ホタルは、種類や地域によって光る間隔に差があります。ゲンジボタルは、西日本では約2秒、東日本では約4秒、その境目の辺りでは約3秒の間隔で光ります。光の点滅がホタルの会話だとするならば、その間隔は「方言」とも言え、違う地域に紛れ込んだら言葉が通じなくなるかも知れません。

■飛ぶのはオス？　メス？

発光しながら飛び回っているゲンジボタルは、ほとんどがオスです。草むらに隠れ、弱い光を発して待っているメスの光を見つけると強く発光して合図を送り、メスは、それに答えて強い光を送り返します。



ゲンジボタル

関連する文化財

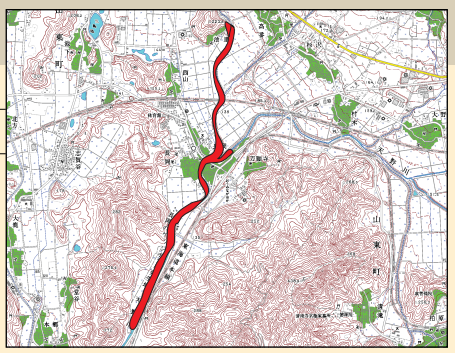
息長ゲンジボタル発生地	学習シートNo.122
沢辺ゲンジボタル発生地（宮城県金成町）	東北地方の代表的なゲンジボタルの発生地
岡崎ゲンジボタル発生地（愛知県岡崎市）	「生田蛍」の名で著名な蛍発生地。カワニナの増殖などにより蛍の保護増殖が図られている
山口ゲンジボタル発生地（山口県山口市）	江戸時代から旧暦4月20日を蛍の縁日として、籠に飼っていた蛍を放す風習があった
船小屋のゲンジボタル発生地（福岡県瀬高町・筑後市）	矢部川の一帯の蛍発生地
鎌田川ゲンジボタル発生地（山梨県昭和村）	甲府地方の風土病の中間宿主のミヤイリガイがホタルの幼虫の食餌であることから、両者の共存が問題となっている
木屋川・音信川ゲンジボタル発生地（山口県長門市・豊田町）	いずれも中国地方の著名な蛍発生地であったが、乱獲のため減少したため指定による保護が図られた

もっと深く知りたい

山東町柏原宿歴史館　☎0749-57-8020　坂田郡山東町柏原2101

山東町教育委員会　☎0749-55-8110　坂田郡山東町長岡1206

長岡のゲンジボタルへのアクセス　JR東海道本線　柏原駅下車



【参考文献】〔日本の天然記念物〕講談社　〔滋賀縣天然記念物調査報告〕滋賀縣保勝會

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　　平成16年3月